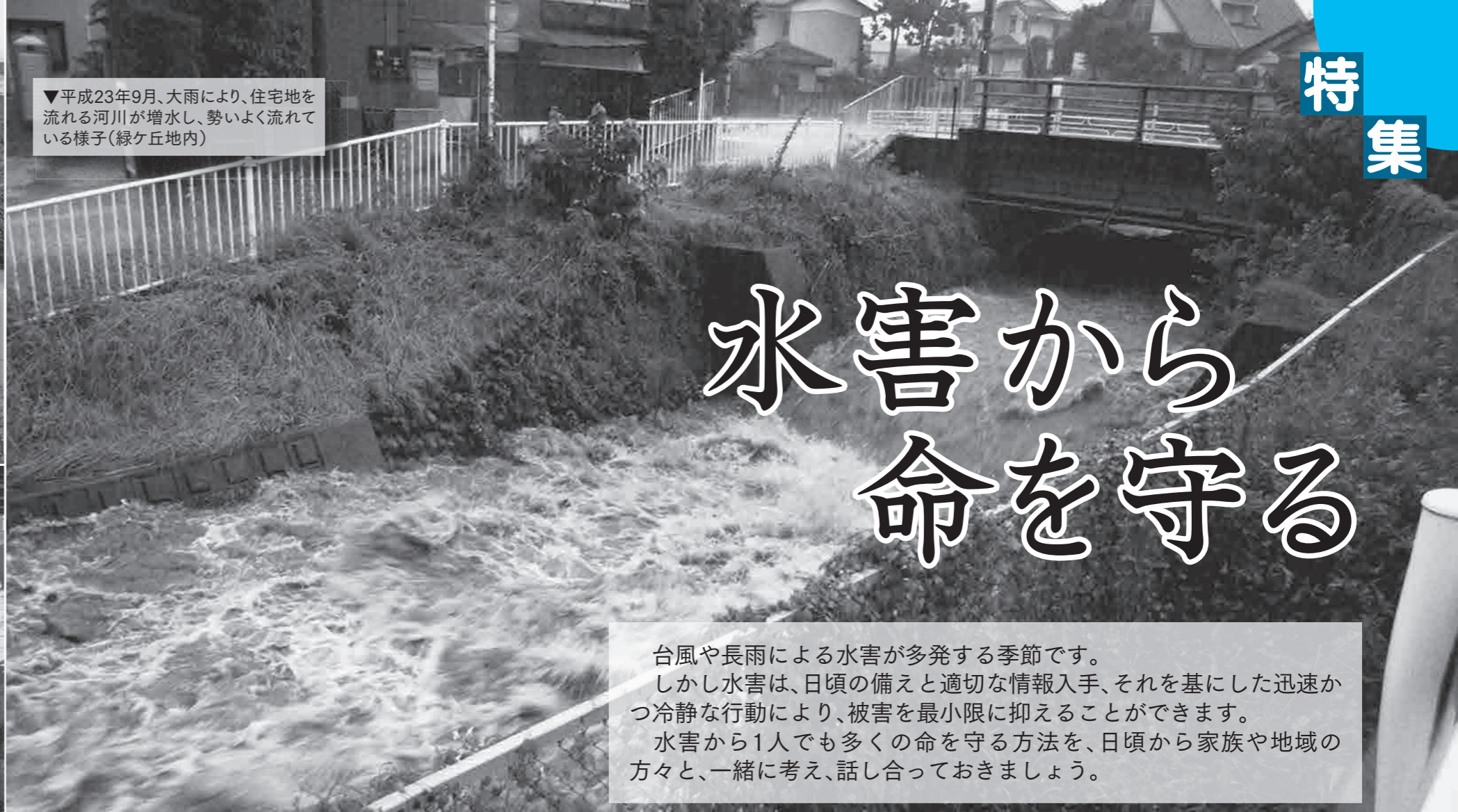


水害から命を守る

台風や長雨による水害が多発する季節です。しかし水害は、日頃の備えと適切な情報入手、それを基にした迅速かつ冷静な行動により、被害を最小限に抑えることができます。水害から1人でも多くの命を守る方法を、日頃から家族や地域の方々と、一緒に考え、話し合っておきましょう。

▼平成23年9月、大雨により、住宅地を流れる河川が増水し、勢いよく流れている様子(緑ヶ丘地内)



▲平成23年9月、利根川の増水により河川敷が水没した上武大橋付近
▶普段の上武大橋付近の様子



▲平成19年9月、荒川の増水により水没した川本中学校グラウンド
▶普段の川本中学校グラウンドの様子



被害を未然に防ぐ 水害への対策

利根川・荒川という大きな河川が市内を流れる深谷市では、日頃から水害に対するさまざまな備えをしています。

例えば、雨が降って市内を流れる小さな河川の水位が上がった場合、そのままでは水があふれて町なかの水浸しになってしまう危険があります。そうした事態を防ぐために、継続的な監視と併せて、速やかに市内4カ所にある『排水機場』を操作し、増水した水を大きな河川へ排水しています。

また、大雨で冠水した道路など、危険な場所がないか見回りを行う



▲日頃から市役所の事務室内で川の水位などを監視し、水害の予兆を発見次第、すぐに対応できるよう備えています

頃からの備えが大切です。

まずは、自分が普段生活する地域で、水害の際に危険と思われる場所や避難する場所を、ハザードマップ(災害予測図)で確認しましょう。

市では平成26年3月に、水害や地震を想定した『洪水・内水ハザードマップ』と『地震ハザードマップ』を作成し、配布しました。万が一避難が必要になったときのために、必ず目を通して、家族や周りの方々と一緒に、あらかじめ避難方法などを確認しておきましょう。



▲洪水・内水ハザードマップと地震ハザードマップ。総務防災課や総合支所、公民館で配布しています

予兆を見逃さない！

水害は地震と異なり、被害につながるような『激しい雨』などの予兆を、ある程度予測することができます。

テレビやラジオ、インターネットなどから提供される、気象情報

たり、万が一の事態に備えて水防訓練を行うなど、常に気象情報に留意して、被害を未然に防いだり拡大させないよう努めています。しかし自然は、時にとてつもなく猛烈な力で私たちを襲います。

市内であった大雨による避難指示

平成19年9月、関東地方に上陸した台風9号により、荒川の熊谷水位観測所(熊谷市榎町・荒川大橋付近)で観測史上最高水位(5・65m)を記録し、氾濫危険水位(5・60m)を越える事態が発生しました。

これにより、市南部を流れる荒川の河川敷にある川本中学校グラウンドは完全に水没し(3ページ上から2つ目の写真)、付近の住民には『避難指示』が発令されました。272人の住民が近くの公共施設へ避難し、幸いにも人的被害や家屋への浸水などの被害はありませんでした。

日頃の備えが命を救う

いざ水害が発生した時や、その予兆がある時に、慌てず速やかに命を守る行動をとるためには、日

災害情報・避難情報などから、災害の予兆を見逃さず、命を守る行動に結びつけましょう。

災害時は、防災行政無線をはじめ、複数の手段から情報入手することが出来ます。詳しくは、5ページをご覧ください。



▲降水量の予測などを確認することができる『高解像度降水ナウキャスト』(気象庁ホームページ)のイメージ

そして、そうした予測を生かして、早めに避難準備をしてください。『自分は大丈夫』という過信は禁物です。

避難すべきか迷うこともあるかと思いますが、わずかな時間でも、状況は悪化することがあります。少しでも危険を感じたら、迷わず、速やかに避難してください。

なお、避難をする時は、動きやすい格好で、2人以上で行動するよう心掛けましょう。

特集 水害から命を守る

災害時などの情報入手方法

防災行政無線・テレホンサービス

防災行政無線

屋外スピーカーを通じて緊急情報などをお知らせします。

テレホンサービス

防災行政無線の放送内容を電話で確認できます。
☎0180-99-4431 ※通話料のみ(情報料不要)

テレビ

NHK総合テレビ
【地デジ1チャンネル】

NHK総合テレビ(1チャンネル)のデータ放送を活用し、気象情報などの防災情報が確認できます。
リモコンの[d]ボタンを押すと、次の情報を確認することができます。

- 気象情報
- 河川水位
- 雨量情報
- 防災、災害情報 など

テレ玉(テレビ埼玉)
【地デジ3チャンネル】

テレビ埼玉(3チャンネル)のデータ放送を活用し、防災行政無線で放送した内容などを発信しています。

- ①テレ玉(3チャンネル)を視聴する。
- ②リモコンの[d]ボタンを押して、テレ玉のデータ放送画面を開く。
- ③画面左下の一覧から『深谷市からのお知らせ』を選び、リモコンの【決定】ボタンを押す。

インターネット・メール

市ホームページ

災害情報などを随時更新します。

深谷市 検索

市メール配信サービス

あらかじめ登録をしたメールアドレスへ、市からのお知らせや災害・防災情報、防災行政無線の放送内容などを配信します。



登録はこちらから



気象庁ホームページ

気象の状況や見通しに応じて、警報、注意報を発表します。また『解析雨量・降水短時間予報』や『ナウキャスト』などで、降水量などの予測を確認できます。

気象庁 検索

ツイッター

災害など緊急時には災害情報などを発信します。

深谷市公式アカウント

Fukaya_City



緊急速報メール

避難勧告の発令など緊急度の非常に高い情報を、市内に存在する携帯電話(ドコモ、au、ソフトバンクの対応機種のみ)に一斉送信します。

風雨の中での作業や見回りは危険です!

風雨が強まる中で、屋外で家屋の補強をしたり、自宅周辺や田畑の状況を見回ったりなどして、毎年、大きなけがをしたり、水に流され亡くなるかたがいます。

このような行動は非常に危険です。絶対にしないでください。



インタビュー
「これが大事!」

水害から命を守るために大事なことを、気象庁の防災管理官の山田さんと、実際に大雨による避難を経験した富田さん(本田在住)にお話を伺いました。



日頃の備えと早めの行動を!

気象庁 熊谷地方気象台 防災管理官
やま だ たかのり
山田隆徳さん

台風などによる大雨の場合、気象庁では段階的に『注意報』や『警報』などを発表します。その際、情報を受け取る皆さんには、それらの情報を基に、『災害への備えの確認』や『避難準備』といった具体的な行動を早めに起こしてほしいと、私たちは願っています。

どんなに早く注意報や警報を発表しても、情報の受け手が情報を正しく理解し、行動に移さなければ、何の意味もありません。『今まで大丈夫だったから』などと思わず、早め早めに行動してください。危険が差し迫ってから、いざ避難では遅いのです。

また、いざという時に冷静に対応するには、日頃から『この情報が出たら、こう行動しよう』など、周りの人と話し合い、避難の手順を共有しておくことが大切です。『日頃からの備えと早めの行動』。それが自分の、そして周りの人の命を守ることにつながると、ぜひ心に留めておいてください。

気象の専門家から



▲市職員対象の防災に関する勉強会(7月29日)で気象情報の活用方法を教える山田さん。熊谷地方気象台と市では、いざというときに冷静かつスムーズな対応ができるよう、普段から連携を図っています



▲自主防災会などの活動を説明する富田さん

経験して知った
『早めの避難の大切さ』

とみた みちお
富田道夫さん(本田)

大雨による
避難を経験して

台風による大雨が続いていた平成19年9月6日の夜、家の近くの川が、これまでにないほどの水位となっているのを見て『これはまずい』と思い、急いで避難しました。真夜中の避難でしたが、幸いにも無事に避難所へたどり着きました。しかし、やはり暴風雨の中での避難は危険が伴います。夜間は視界も悪く、なお危険です。状況がひどくならないうちに早めに避難する大切さを痛感しました。

この経験を教訓に、本田中央自治会では自主防災会が結成されました。自治会の役員が中心となり住民からの聞き取りをして、各世帯での資機材の保有状況をまとめたり、自治会だよりで水害予防活動の啓発も行っています。また、住民同士で連携し、速やかに避難する方法も模索中です。

こうした取り組みや防災に対する心構えは、地域住民が共有して初めて生きるものだと思います。自分の命を守るのはまず自分。地域が一丸となって一人ひとりの『防災力』をもっと高めていきたいですね。



▲水害予防活動の記事が掲載されている『本田中央自治会だより』